



津波ハザードマップ

防災対策課では、各町の津波ハザードマップを作成しています。避難経路や避難地の位置確認にご活用ください。手元がない方は、防災対策課、各支所窓口で配布しています。

▶右の写真は、緊急消防援助隊として救助活動に参加した市の消防職員が活動現場を撮影したものです。10m以上の津波の襲来で壊滅状態となった岩手県大船渡市の市街地。がれきの山と化した家の上に、漁船が乗り上げた凄惨な光景です。



津波の原因の約9割が海底での地震によるものです。台風などで発生する高波とは波の高さが同じでも、堤防を越えてきた場合の水量や破壊力は桁違いです。津波は、日本近海でおよそマグニチュード6.5以上、震度4程度以上の地震、または、震度は小さくてもゆっくりとした揺れが長く続く場合に発生する可能性が高くなります。昭和35年にチリで発生した地震による津波は、約1日かけて太平洋を横断し最大約6メートルの津波となって日本各地に大きな被害を与えました。このような場合は地震の揺れを全く感じないので、テレビやラジオ、防災無線などの情報が頼りです。

津波から生き延びるために知る。行動する。

津波

30分

地震発生から30分 襲来までに

スピードは ジェット機並み



過去の南海地震を知る

1707年に東海、東南海、南海の3地震が連動して起きた宝永地震(M8.6)で発生した津波について、夜須町では21mに達したという一説があり、その津波は上夜須備後地区(海岸から約3km北)まで夜須川を遡上したという記録が残っています。

香南市では、東日本大震災が発生した3月11日午後9時20分に手結港で1m44cmの津波が観測されました。

次期南海地震をM8.4と想定した津波の浸水予想は上図のとおりで、これは記録が詳しく残る1854年の安政地震を用いたものです。現在、3地震が連動した場合の被害想定やシミュレーションの再検討も計画されていますが、予想以上の津波を想定し、できるだけ早く遠くの高台へ避難することが賢明です。

津波の恐ろしさ

津波の恐ろしさの最たる特徴はスピードの速さです。沖合ではジェット機並みの時速800kmの速さで進み、海岸付近で津波を見てから逃げて間に合いません。県の報告書(高知県津波防災アセスメント補完調査報告書)では、津波の最大波は、満潮時と地盤沈下を考慮して約6~7mとなり、地震発生から約30分で来襲すると予想しています。

破壊力

津波の波長は数kmから数百kmと非常に長く、海底から海面までのすべての海水が巨大な水の塊となって沿岸に押し寄せてきます。このため勢いが衰えずに連続して押し寄せ、浅い海岸付近では波の高さが急激に高くなる特徴があります。

また、津波が引く場合も強い力で長時間に亘って引き続ける

津波発生時のサインを察知

津波の発生は、知ることができません。地震などとは違い、津波は次にあげるサインによってその発生を知ることができます。

- 地震：震度4以上、または揺れが小さくても揺れが長く続く
- 海の異変：海水が引くなど
- 津波警報：テレビ、ラジオ
- 避難指示：防災無線

サイレンなど

東日本大震災での津波は、いつも簡単に10mの高さを誇る防波堤を越えました。香南市の沿岸部には、高波を押しやる防波堤が設置されていますが、津波による長い周期の波には、高波以上の力があり、防波堤が破壊されることも想定されます。防波堤があるからと安心はできません。

より高く遠くへ避難

防波堤などのハード整備は、すぐにできるものではありません。とにかく、津波が来るとわかったら、海岸を離れ高台や避難所などの安全な場所に逃げてください。避難経路で渋滞を起して逃げ遅れたりすることがないように、できるだけ自動車を問わず徒歩で避難してください。